

平成 元年 1月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

## 春の七草考

7日の朝に七草がゆを食べたご家庭も多かったことと思います。

「芹なずな、<sup>ごぎょう</sup>御形はこべら、仏の座、すずなすずしろ、これぞ七草」という四辻左大臣の歌にある7種類の若菜を摘んでかゆに入れて食べて無病息災を祈ります。世の中があわただしくなった現代では、のんびり摘み草をする時間も場所も無くなり、代わりに園芸店やデパートで、けっこうよい値で売られるようになりました。もともと、この年中行事は旧暦で行っていたものですから、それを新暦の1月7日に行うことは無理なのです。旧暦では今年は2月12日になりますがそのころになると寒さも少しはやわらぎ地面にへばりついていた葉ものび始めます。

### ◎ セリ

湿地、田んぼの畦<sup>あぜ</sup>や用水路、池の周りなどに群生します。生活雑排水が流れこむ肥沃なところには特によくはえますが汚い水を見ると、これを摘んで食べる気にはなれません。あくが強いいため、いちどにたくさんたべないほうがよいようです。

### ◎ ナズナ

道ばた、庭はもちろん精農の畑にもすぐはえてきます。葉を地面に放射状に広げて冷たい風から身をまもっています。タンポポやオオマツヨイグサなどもこの形態で冬を越しますがこれをロゼット型越冬といいます。

### ◎ オギョウ

古名では、オギョウまたはゴギョウと呼ばれていましたがハハコグサのことです。これも道ばたや空き地、畑はもちろん、市街地の畑にもよくはえてきます。この葉を摘んで餅に入れる地方もありますがヨモギのようなよい香りはありません。

### ◎ ハコベラ

これも古名でハコベのことです。冬から春先にかけて緑の茎や葉をしげらせますが初夏には全体が枯れてしまいます。小鳥を飼っている人はハコベをよく与えますが夏には無くて困ったという経験があるでしょう。大型で茎が赤いウシハコベは夏にも枯れないのでこれをとって与えます。

### ◎ ホトケノザ

コオニタビラコです。ややこしいことにシソ科にも同名の草があってよくまちがえられることがあります。田んぼに、はえるため市内では7種類のうち、いちばん収穫しにくく、売られているものも、その多くが近似種のヤブタビラコか遠似種のオニタビラコです。

### ◎ スズナ 今のカブです。

### ◎ スズシロ ダイコンです。

この2つは栽培種です。七草がゆを作るとき、カブの代わりに同じ根菜類のニンジンを入れる家もあります。米とダイコンの白、セリなどの緑とニンジンの赤とが互いの色をひきたててきれいです。

(文責 中西 勲)